

# めだかの学校だより

令和6年5月1日  
第123号  
学舎：周智郡森町  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL:0539-62-6691

## 校長訓話

第一二三回 校長 小山 展弘

「徳に報いて町をおこす」  
二宮尊徳は江戸時代に八百もの農村復興を果たしたと言われています。二宮尊徳を見出した小田原藩主の大久保忠貞公は「尊徳のやり方は、論語にある徳を以って徳に報いるのであるな」と話したと言われています。大久保公の言葉から、二宮尊徳の考えや農村復興のやり方を一言で表現すると「報徳」であると言われてきました。ここでいう「報徳」とは？「徳」とは？何でしょうか。  
二宮尊徳翁の子孫であり、報徳思想の研究者でもある中桐万里子先生の著書によれば「あらゆるものには『徳』があり、その『徳』とは、いまここに現存しているあらゆるものを成立させた『ドラマ』とでもいうべきものです。一本の大木も、小さな苗から始まり、たくさんの人が手間ひまをかけて作業を加え、思いを注ぎ、育ててきた歴史があり、太陽の恵みと雨風の恵み、大地の恵みなど、自然が多くのエネルギーをかけて、大木になっていくのです。『報徳』とは、自然や親や先祖様を始めとする多くの人の力や思いが凝縮した結晶として、多くのものを与えられて、私達は、今、ここに存在しており、そのことに気づくとともに、すでに『与えられている』ことに感謝し、『すでに幸せなのだから頑張ろう』と報いようとする姿勢」ということだ」と書かれています。問題を解決する際

に、あらゆるものにすでに宿っているプロセス(情報)を活かそうとする姿勢とも言えるでしょう。中桐先生によれば、京都では「この坂道を近藤さんが走っていたんだよ」などと、新選組の近藤勇が、つい昨日、清水寺の近くの坂道を走っていたかのようには話をするところもあるのだそうです。また、「京都では、有名な神社仏閣だけではなくて、街の隅々にそうしたドラマが残されています。そして京都人たちは、驚くぐらいにこれらのドラマをよく見て暮らしています。これらのドラマがたしかに現在も鮮やかに息づいているのがこの土地です。京都の人々は、まるで昨日のこのように隣人のことのように京都という土地を築き上げてきたプロセスをとらえています」「愛されてきたことを知っている、受けていることを知っている、徳というプロセスをよくみて、それとともに生きていく。だからこそ、自信やほこりを抱くことができる。だからこそ、それらに応えるように「今度は自分だつて京都のために何かしよう！」という恩返し実践へと向かっているわけです。大いなる郷土愛を發揮し、イキイキとそこで暮らし、京都という地をもっとすてきに、もっと尊いものにしてようと尽力しているということですね」とも述べておられます。  
翻って、私たちは、今、自分たちの住んでいる町や土地の徳やドラマをよく見て暮らしているでしょうか？遠州のそれぞれの町にも、それぞれのドラマがあり、先人たちの苦勞があり、あるいは先人たちが注いだ郷土への限りない愛や思いがあり

ます。それらは、メダカの学校でテーマになり、様々な地域情報誌でも紹介されてきました。聖武天皇と桜井王が国の安寧を願って国分寺を造営し、平家一門の滅亡の悲話があり、今川了俊や今川義元の活躍があり、徳川家康が「坂道を走って」逃げたであろう一言坂の戦いや、徳川家康が苦難を経験しながらも成長していったドラマがあり、緑十字機の不時着と住民の救助が日本の未来を救ったドラマもあり；数えきれない様々なドラマを見ることができるとは思いません。道端にそつと立つお地藏様、町や村の鎮守様、名前も分かっていない当時の人々が往来した道、願いを込めて作られた観音様など、私たちはなんと多くのドラマに囲まれて、素晴らしい「徳」のある地に生きているのではないかと気づかされます。  
そこに住んでいる人たちが、自分たちの町の特徴や「徳」に気づきにくいものです。私は山口市に赴任していた際に、日本初のキリスト教の教会ができ、異国情緒も感じつつも、小京都と言われるほど日本文化も感じられる山口市を好きになりました。しかし、職場の同僚にそのことを話しても、「山口の町のどこがいいの？もつと人口の多いぎやかな町の方がいい」と言われたものでした。しかし、そこに住んでいる人たちの評価とは異なり、ニューヨーク・タイムスは「2024年に行くべき52か所」の第3位に山口市を挙げました。すでに存在している、その土地や町の「徳」に気づき、見出し、を活かすことこそ、町おこしや町づくりの第一歩ではないかと思えます。



## めだかの学校伝言板

第123回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／小山展弘

教頭／鈴木眞弓

用務員／上嶋裕志

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっていません。

消毒とマスクはして下さいね。

開校日／令和6年6月1日(土) 正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄(後見人)

31期通年テーマ：

『原点に帰ろう…建学のこころの精神に』

今回のテーマ：

《もう一人の私「もう一人のあなた」の発掘って…》

<時間割>

●1時間10分の特別授業 理科

「フタバガキから始まる花物語…」木村智子先生

※質疑応答も用意しています。

●給食は取り寄せです。

PM3:15 閉校

## めだかの動き

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■浜名湖花博20周年記念『未来を開く花景色』

「テクノロジーと花と緑が創り出す、いつもと違う感動の86日間」開催中はまたつフラワーパークの営業・誘客専門監の村木謙式メダカから、お手紙と浜名湖花博20周年記念事業のチラシが送られてきました。まさに村木メダカらしい手紙でした。いつもありがとございます。バラさん、いつもほんとにごくろうさまですね。122回だなんて考えてもいなかったんでは？と思つてますよ。ホント「しつこい」面々だネ。

さて、今年には浜名湖花博20周年記念事業でフラワーパークは大忙しでござるよ。先の10周年記念の時は、ガーデンパークは61万人、フラワーパークは60万9千人と大盛況でしたぞ！メイン会場はもうフラワーパークといつても差しつかえないし！。何と言つても美しい庭園は手をかけ、時をかけ、気をかけの3つがなければ出来ないし、きれいに育たない。2004年の花博では100万人を超えるお客様がガーデンパークに行つただけで今は違うぞ！と言え。な〜んでか？それは、ガーデンパークは無料の公園に半年で庭造りをし金を取って見せる。フラワーパークは、50年の庭園管理を見てもらう：の違いがあるから。花壇は自治会やボランティアが造るのがガーデンパーク。プロの樹木医やデザイナーが造って観せるのがフラワーパーク、そんな違いが入園料の違い

いに表われているのです。今フラワーパークは総仕上げ、私はその宣伝に、旅行者さん達にお知らせ「理解を得るべく年寄りの力を発揮中でござる。また花博はそんな目でも見てほしいネ。当分は忙しくさせてもらつてます、だつて。

浜名湖花博20周年記念の日程と料金は、●ガーデンパーク4月6日(土)〜6月2日(日)、入場料は800円、駐車場500円。●フラワーパーク3月23日(土)〜6月16日(日)、入場料1000円、駐車場2000円。2会場セット券は1700円、駐車場は別途。

『未来の花開く花景色』、どうぞお出かけくださいね。(村木メダカ&バラメダカ)

## ■エンケル「バラ便り」

久しぶりのバラ便りに接して少しだけ元気を頂きました。これからはこの便りの事を「エンケルバラ」と呼ぶことにします。今年の正月に昔、右翼のトンでもない友人から手紙が届きました。もうクソ爺なのに、すごい過激さで真剣と言つて本気に心配しております。

その手紙の内容はと申しますと、「日本をこんなにしたのはアイツだ。政府の暗愚さに神仏は怒りだ。元旦の地震、羽田の事故はその前触れのお告げだ。昭和維新の歌を思い出せ！一緒に歌おうぜ。そして「天誅を実行しよう」と言い出して歌詞を書いてきました。昔、青年と呼ばれていた頃に歌った様なかすかな記憶が…。

「嗚呼、人栄えて国亡ぶ、盲ひたる民世に踊る。天の怒りか地の声か、それも只ならぬ響あり、革新の機りぬと、吹くや日本の夕嵐」と言つ具合の長文の歌です。主権在民の民主主義の今日では、政府・総理の暗愚は、我々民(国民)がお馬鹿な

暗愚に他ならないのですが…。その友人は自分だけが賢いと思ひ込んで居るので始末に困つております。

余談ですが、近頃では「高齢のため年賀状のやり取りを終了します」と言う便りが増えております。実は私も悩んでおりますが…。

心の中の叫びは「免許証は返納すべし、後期高齢者の講習は受ける、認知度試験は受ける、免許証は三年で更新だ！」等々、一方的に個人差は全く考えず高齢と言う理由で差別を！人は区別と言う人も…。そこで年賀状を高齢を理由に止めてしまつたら、後期高齢者のハンディを自ら認めたい事！。免許証条件に文句は言えなくなつてしまふ。そして人生、生涯をギブアップしてしまつたような寂しさが…。従つて年賀状の是非の結論は出しておりません。10ヶ月かけて考えようと思つております。とにかく興味津々おせっかい好奇心少年爺としては、自分で自分を追い込んで多忙の日々です。(花井孝メダカ)

## 『人・ひと・ヒト…だより』

●浜松市の小野田宗弘メダカ。今回は行けると思つて予定表見たら、すっかり先約が入つてました。また欠席。6月、9月、12月は学校行事や部活で出席が難しい。チャンスはまた一年後ですかね、だつて。第71回浜松市展に応募したら、絵画、彫刻、書、写真、工芸、315点の応募のうち、普通に入選だった。美術館に飾られるだけで良しです、とも。高校教師をしながら毎年応募。昨年も賞をもらつているからたいしたものですよ。来年の3月のめだかの学校は3月1日です。会えるといいね。めだかの学校の先生になつたりして。(笑)

●三島市の野村諒子メダカ。最近の思い：

今年こそは良い年に…という願いが叶わず、災害も紛争も人ごとでは済まされない世界の状況です。だから人と人の付き合いや、今誰かの為に自分の出来ることを考えていきたいと思ひます。それと同時に自分の健康もいつ崩れるか分からない歳になり、行きたいところややりたいことも我慢せず、時間をやりくりして楽しい時間を過ごせたら幸せです。歳をとつたらストレスを溜めない人生を自分で解決！だつて。本当にそうですね。気分を変えて旅行に行こう！

●浜松市の中村明男メダカ。20年弱続いたフォーク音楽祭、今年も開催にこぎつけます。やつと後任も決まり、名称も『浜名湖フォークフェスティバル』。9月29日(日)会場の仮予約とりました。これで社会とのつながりが保てます。めだかの精神で、好奇心一杯、今日も一歩前へ、だつて。いいね、行け行けドンドンだね。

●遠州森町の天野智加志メダカ。今年、袋井の「法多山田遊び」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。小國神社古式舞楽に永年に関わつて居る私は、コロナ禍で4年ぶりに奉納された1月3日「寺野ひよんどり」(国指定)を観覧しました。県西部の国指定重要無形文化財は①寺野ひよんどり②川名ひよんどり③懐山おくない④西浦の田楽⑤遠江森町の舞楽(天宮神社・小國神社・山名神社の三舞楽)⑥法多山の田遊びです。4月6日(土)、7日(日)の天宮神社の十二段舞楽、4月20日(土)、21日(日)の小國神社舞楽がある、だつて。めだかの便りが届く頃は終わっています。3月2日出席のめだか生には伝えましたが：ごめん。

●浜松市の鈴木偉代メダカ。時間があれば浜松医大の竹林の伐採を手伝っています。昨年11月で仕事をやめました。今月(2

月)の後半から、また次の仕事を始めます。自然の中は心安らぎます。だって。ほんと、自然の中はいいよね。新しい仕事の方はどうですか？では6月のめだかで会えた時に。

●警田市の伊藤英雄メダカ。政治は職業だったかな？。所属する党と派閥に助けられて当選？自分はどこに行った？。議員不正行為はない。不味い事柄はすべて秘書だって。秘書って何でも出来そう。その秘書の任命者は？沈黙はキンナリ。？？？。？？？。だって。いや、ホントホント。国民主権はどこえやら…。議員さんも国民のひとりだよ。

●袋井市の大場敬子メダカ。刻一刻と世界情勢はかわってますね。それに無頓着で、見当違いなことばかりやっている政治家にメディア。めだかの議員さんに、ほんと、がんばってもらいたいですね。実は私のヘマで家の車がなくなりまして、雨が降ったら行けないと心配していたのですが、大丈夫そうです。やっと参加させてもらえそうで楽しみです。だって。でもケガがなくて良かったですね。ヘマは誰でもあります。まア、のんびりいきましよう。

●浜松市佐久間町の山田修メダカ。現在、コロナウイルスに感染して闘病中です。細心の注意を払っていたのですが、どこか気の緩みがあったかも知れませんが、検査陽性が判明して処方されたのが風邪薬でした。コロナ治療薬を処方されると思っていたのですが驚きです。ちっとも良くなりません。再度事情を話しましたが風邪薬を渡されませんでした。コロナ治療薬は地方には出回っていないでしょう。渡されたパンフには薬名が色々載っていました。我らには関係ないみたいですね。咳と喉の痛みは強烈ですが、焼捨て山行きの車から途中下車して三途の川まで行かないように体力をつけ

ようと思っております。今回は愚痴でした。夫婦揃って感染しました。だって。大変でした。私の近くの人もコロナにかかって渡されたのは風邪薬とのことでした。最低1週間は出歩かないように、言われたとか。2月のこの頃は、どこも同じだったかも。

●神奈川県横浜市山根圭二メダカ。オネガイ：通信教育制を引き続きおいて下さい、ませませ。ヤマメメダカ〇〇年生許可下さいませ。よろしゅうによろしゅうに！です。だって。1200円の切手4枚同封して。いつもながらお茶目なおひとです。(笑)。平成18年2月1日の第51号の校長訓話に、タイトルが「男と女と男」。地球温暖化、人間社会冷淡化、日本列島活断層期突入のもと、老若男女と共に、男は劣化弱体化、女は優勢巨人化。さてさて、メダカのみならず、メダカの学校では生かされ、泳ぎ回されていることに感謝しましょうぞ!!。写真も若々しく元気いっぱい。めだかの学校のHPのぞいて見て!(笑)。

●警田市の小野里美メダカ。「めだかの学校だより」ありがとうございます。"わく！校長だつて！"。自分の名前で出席案内状なんて、人生初めての経験です。3月2日、当日楽しみたいたと思っております。だって。校長になって、このように言った人も初めてですヨ。指名した甲斐がありました。(笑)。

●藤枝市の小嶋良之メダカ。12月で退職したものの、ライターとしての仕事は続いていて、15年余ほぼ一人で担当してきたので、4名の役職者に仕事を分担したものの、様々な事象が起こるたびに対応している状態です。15年間失礼して来た会合にもほちほち出席を開始しています。ただ近場ばかりでの会合ばかりで、すぐに緊急入院できる範囲にとどめ、できるだけ家内同

伴で対応できるようにしています。なので、めだかも今しばらくはお休みいただく予定であります。榊原さんのような先輩がいらっしゃり、活動が続けてこられることが励みになります。だって。めだかの学校は200回までやる予定のようだから、あと20年は大丈夫だよ。(笑)。無理しないでね、お大事に。

●警田市の井上啓子メダカ。毎月手書きのB4の、みに情報誌を発行している。その中に、自分のからだは自分で守ろう。『一無、二少、三多』でますます健やかに。『一無、二少、三多』は吸わない生活のこと。二少…少酒のすすめ、食事は腹八分目、アルコールはほどほどに。三多…多動、多休、多接のすすめ、体を動かし、しっかり休養、多くの人や物に接する。一日4000歩以上歩いて、趣味や旅行でリフレッシュ。十分な睡眠をとって、朝の太陽の光を浴びて、多くの人としゃべって、脳への刺激を与えて、ゆっくりよく噛んで。だって。どう、皆さん、実践していますか？。まだの人は今から始めよう。免疫力高まりますぞ!!ハイ。(笑)

●遠州森町の榊原淑友メダカ。県内で初めてウーロン茶製造を手がけ、台湾の製茶技術の発展に貢献した森町出身の藤江勝太郎さん(1865~1943年)を顕彰しようとして動き出している。4月6日、7日の春の蔵展では、森町城下に現存する生家を一般公開。生家の保全も検討している、と。また藤江勝太郎さんは大正以降は、森町商工会設立や町長を務めるなど地元発展にも尽力した、だって。淑友メダカさん色々やるなあ。益々忙しくなるね。

●森町の村松達雄メダカ。3月31日を以て、森町文化会館の館長を退任。これからは自由な身で、地域文化や伝統芸能の育成や掘り起こし、人物などにも焦点を当てて

行く。台湾との交流も活発にする予定とか。また現大日本報徳社長鷺山恭彦氏の祖父、鷺山恭平氏が70年前の昭和28年に出版した『報徳開拓者安居院義道』が入手困難で、文庫も現在では読みづらいためクラウドファンディングで、現代語に訳して、神奈川県福進一さんらとこのほど出版。いや、凄いな。9月のめだかの学校期初特別授業は、達ちゃん決定だね。(笑)。

●北海道の船木耕二さん。3月29日に、東京の菅原敏一メダカ、砂村さん、大竹さんら5人で、12時半に小田原駅前に集合して、レンタカーで警田市大平の鈴木正士メダカのお見舞いに。途中新東名の事故渋滞にかかり、4時少し前に到着。正士メダカと村松達雄メダカ、バラメダカでお出迎。正士メダカの元気な姿をみて「オツ、ニコ」良かったア、と。離れて大竹洋子さんのお手製ケーキと紅茶、正士メダカの2011年の「シソジュース」などを戴きながら談笑。正士メダカ、先日の血液検査のデータを見せて「ガンの数値は安定している。体重も増えて。余命6カ月と言われたけど、今は8ヶ月」と。顔色も良く元気そのもの。帰りの時間もあり、1時間ほどして再会を約してお別れ。

船木さんが「明美さんに会いたい」と言うので、我が家にも寄る。明美さん、船木さんと菅原さんを見てびっくり。裏の近道を通り途中まで送ってお別れしました。いや、仲間と会えるのは嬉しいね。

××× ×××  
もっともつと伝えたいが、紙面の都合で今回はこれまで。お手紙ちょうだいね。  
《お知らせ》  
めだか春秋は今回お休みします。

## ■事務局だより

目には青葉山ホトトギス初鱈。この時期のカツオはぶりぶりして、シヨウガヤニンニクの醤油につけて…いや。思うだけでツバがたまってます。(笑)。

さて、第122回めだかの学校は、3月2日の土曜日、校長小野里美、教頭鈴木計芳、用務員中村明男の真面目なトリオ。授業の方は、元高校教師の目から見た???。女性目線から見た???。元新聞記者から見た???。

この三者、偶然にも議員さん、どんな授業になるか期待いっぱい!。今回は新入生もおらず、美味しい給食も早く食べ終えたので教頭先生の判断で時間を早めて、1時から校長訓話をするに。

小野校長。初めて

の校長でびつくり。主人(故小野泰弘メダカ)と同じ浜松市役所の職員。ある時、

主人が警田市の市議会議員に公明党から立候補、議員に。4期16年勤めたあと、警田市の社会福祉協議会の会長に、その時ガンが見つかり、仕事と闘病をつづけるが帰らぬ人に…。めだかの学校には、主人の意志をついで入校したと。そのあとアグネスチャン作曲の平和の歌を披露。

いよいよ三者三

様の授業。1時間目、竹野昇先生。アフガンで亡くなった医師の中村哲先生のことを話すとのことで、埋田千聡メダカ、プロジェクトを準備しながら、中村医師の活動をまとめたものを時間があつたので流す。竹野先生、資料やプロジェクトを使って、中村医師



が、かんがい用水を作ったり、100万本の木を植えるとか、亡くなられたあと農地が15倍拡大、地元の人々のやる気が出た。今年の4月から袋井、警田、森など6地域の学校が授業で取り上げるなど、中村哲医師への思いを語る。

2時間目の芦川和美先生。家のことは主人と息子がやってくれて、主人が倒れてその大変さが分かった。議会では

生ゴミの減量や環境問題、子育てなど市長に質問するが、話がかみ合わず、つかみついてしまった。NPOを立ち上げて福田豊浜海岸の清掃活動をしてきたが、きれいになったので解散しようとしたら、若い人たちが引き継いでくれた、など話す。市長にはあとで詫びのメールした、だって。3時間目は、元新聞記者の八木義弘先生。

新聞記者時代、NPO「静岡ケナフの会」を立ち上げて、「ケナフで地球を救う」と記事を書いて市民運動を展開。盛り上がるどころか、外来種で日本の生態系を乱すのか、と多くのバッシングや批判されたなど失敗談をおもしろおかしく話す。



私語飲食全て禁止の次期三役の発表。校長小山展弘。教頭鈴木真弓。用務員上嶋裕志。小山校長、国会が深夜まで続いて戻れず、代理は伊藤英雄メダカ。現三役と引き継ぎをする。

最後に、今回は久しぶりに「今日の日はさようなら」を歌いながら、握手してお別れしよう!と前の方へ並んでもらった。『あれ、今日はまだみんな写真撮って

ないヨ」と言われ、写真撮ったあと、前の方で狭かったが、「今日の日はさようなら」を歌いながら握手してお別れしました。コロナ禍以来、みんな嬉しそうだった。

第123回め

だかの学校の職員会議を4月13日(土)10時から学舎で開く。出席者は小山展弘校長、鈴木真弓教頭、上嶋裕志用務員は欠席、石野省三、榎原淑友、松本芳廣、中村明男、伊藤英雄、大島たまよ、埋田千聡、事務局榎原幸雄は遅れて出席、袴田克臣、間違えて飛び込んできたがそのまま参加。全員が集まったところで、今回のテーマと授業内容を話し合う。テーマについては通年テーマが「原点に帰ろう: 建学のこころの精神に」であるので、それに沿った「もうひとりの私」「もうひとりのあなた」発掘: につてに決める。授業の方は、すでに木村智子先生に決まっていたので、科目と題名を検討。木村智子さんが、マレーシアの植物園の職員の時フタバガキに出会って云々の話があつて、理科「フタバガキから始まる花物語」に。

職員会議が終わったあと、これからの運営方法などについて、1回生の石野省三メダカ、舎監で2回生の榎原淑友メダカ、事務局のバラメダカの3人で話し合いました。なんせ200回なんて話し合いません(笑)。とにかく『みんなの考えも聞こう』と、次回の便りの時、ハガキを同封することにしました。



## ■第32期の受付を始めます。

第32期は令和6年9月1日から令和7年8月31日までです。6月1日の開校日より受け付けます。毎年度手続きが必要ですので。申込書を同封しますので8月31日までに提出してください。

## ■今回も遅れました。ごめんなさい。

いつも生原稿のメール打ちの石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、秋山勝則メダカ、大島たまよメダカ、埋田千聡メダカ、水島加寿代メダカ、写真撮影の横山忠志メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榎原明美さん、ありがとうございます。感謝!

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、令和6年8月1日予定。締切7月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBで。メールの方は、

《navun. f100@gmail.com》

間瀬亮太090・5009・0986です。(アドレスが変わりました。まだ昔のアドレスも可。)

## ■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県警田市家田5  
29番地20 榎原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午前11時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

